「老後のお金が心配です！」…という前に

ファイナンシャル・プランナー
FPにゅうす

「人生100年時代」に向けて、話題になったいわゆる「老後2,000万円」問題や、新型コロナウイルス感染症の影響で起きた働き方や収入の変化も、将来への不安を増す要因となっています。

総務省家計調査（2020年）では、65歳以上の夫婦のみの無職世帯（65歳～75歳）の平均でみると実収入は月279,965円、可処分所得（社会保険料、税金を引いた金額）は242,167円、消費支出は251,362円となっています。

65歳から75歳までの収支は10,000円弱の赤字。60代半ばまで継続雇用で働いた後、30年以上続くかもしれないセカンドライフは、今までの働き方や貯蓄の仕方では足りなくなるかもしれません。それぞれの家庭でリタイア後の生活に向けてどのような計画や準備をしていけば安心できる暮らしが手に入るのか、考えていきましょう。

では、何から取り組めばよいでしょうか。

●やりたいことを一覧表に書いてみる（ライフプラン作成）

リタイア後の暮らしを具体的にイメージしましょう。夫婦や家族と話し合いながら、継続雇用で70歳まで働く？自営業で生涯現役！趣味三昧で毎日を送りたい！ボランティア活動に励みたいなど、具体的に記入してみることで自分のやりたいことなどが見えてきます。

わが家の理想のセカンドライフを明確にしておくことは、もやもやとした不安の解消に有効です。

●年間収支・家計のバランスシート作成・キャッシュフロー表作成

また、必要な生活費の試算も必要です。そのためには、現在の収支状況の把握が必須になります。さらに、今ある資産（預蓄や有価証券、不動産など）や、住宅ローンなどの負債があれば完済はいつまでかも把握しておきましょう。

次に、実行に移すためには

理想とするセカンドライフの資金を確保するには、①収入を増やす　②支出を減らす　③資産を働かせるという３つの方法があります。

①**収入を増やす**―継続雇用や資格を取って転職、自営業に転身、アルバイトをする。配偶者も働くことや老齢厚生年金や老齢基礎年金を66歳以降に繰り下げ受給して年金額を増やすことも考えられます。

②**支出を減らす**―支出を減らすというと、食費や光熱費の節約を考えがちですが、効果が高い見直しは固定費です。携帯電話の料金プランの見直しや格安スマホにする。また住宅ローンや重複している生命保険・共済の見直しができると、目先の家計だけでなく先々の支出を継続的に減らす効果があります。

③**資産を働かせる**―預貯金の一覧表を作り、家のリフォーム、車買い替え、子や孫への資金援助、医療や介護の準備資金などの優先順位をつけておきましょう。緊急予備資金として生活費の３か月から６か月分程度は普通預金や貯蓄預金などに用意しておきます。その上で定期預金や定額貯金などの複利の商品や個人向け国債など、元本保証のある金融商品を、使う時期に合わせて振り分けておきましょう。

セカンドステージまで、まだ時間がある

年代によっても準備の仕方が異なります。40代～50代でセカンドステージまでの準備期間が長い場合、iDeCo（イデコ＝個人型確定拠出年金）で65歳まで税制のメリットを受けながら積立運用できる制度を利用する、配当や譲渡益にかかる税金が非課税になるNISAや積立NISAなどを利用することも可能です。これらの制度は今年から改訂もあり利用しやすくなっています。

コープの保障（家計）の見直し個人相談を利用しよう

コープの保障（家計）の見直し個人相談では、保障の見直し、住宅資金、教育資金の準備の仕方など家計全般の相談を受けています。ぜひご利用ください。

お問い合わせ連絡先
コープぐんま共済部
0277-52-6553
個人相談：２時間以内（組合員無料）
コープデリ宅配センター・各店舗
学 習 会：５人以上で無料開催
30分～２時間以内

今月の執筆
久下（くげ） 香（かおる）
ファイナンシャル・プランナー